

2012年3月28日

～「ペットの健康管理意識調査」～

**あなたは大丈夫？ ワクチン接種を定期的に
実施しているペットオーナーの4人に1人は、
種類や効果を知らずに接種！**

T & D保険グループのペット&ファミリー少額短期保険株式会社(東京都文京区、代表取締役社長：日下部 明)は、ペットを飼っている20～70代の男女1,579人を対象に、『ペットの健康管理意識調査』(インターネット調査)を実施しました。

春の感染症予防シーズン到来にあたり、ペットを飼っている方に混合ワクチンの接種状況についてアンケートを行ったところ、「1年に1回は必ず接種している」と答えた飼い主が最も多く約6割(59.1%)、「数年に1回は接種している」(20.0%)と答えた方を合わせると約8割(79.1%)の飼い主がワクチン接種に対して高い意識を持っていることが分かりました。

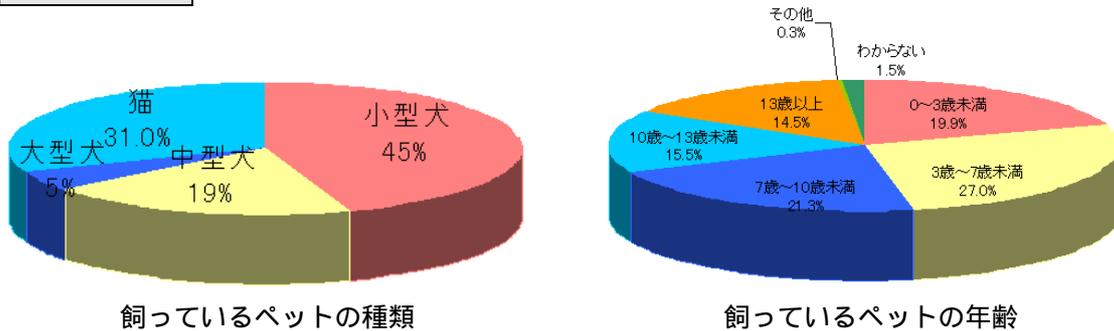
ただその一方、「ワクチンの種類や効果、副作用などを知っていますか」という質問をしたところ、理解をされている飼い主も多くみられましたが、4人に1人(25.1%)が知らない状態で接種しているという結果が出ました。更にペットの去勢や避妊手術に関しても、犬を飼っている方の2人に1人(53.3%)は手術を行っていないとの結果に。ワクチン接種の種類や頻度、去勢・避妊手術等においては、さまざまな見解があると思いますが、効果的に病気を予防するためには獣医師さんと良く相談することはもちろん、予備知識として飼い主自身がペットの病気のことを理解していくことが大切だと思われます。

また同時にペットの年齢と通院頻度の関連性を調査したところ、月に1回以上ペットを病院に連れて行く割合は、ペットの年齢に比例して上昇していく傾向が見られました。犬や猫、大型犬・小型犬など種別によって年齢に対する考え方に違いはありますが、ペットといつまでも一緒に過ごしていけるように、健康管理に気をつけている飼い主の姿を想像することができます。

調査概要

調査対象 : 全国の20～70代の男女 (ペットを飼っている方)
有効回答数 : 1,579サンプル (男性・1,023サンプル、女性・556サンプル)
調査方法 : インターネットリサーチ
調査期間 : 2012年3月9日(金)～2012年3月11日(日)

調査結果概要



あなたのペットは混合ワクチンを接種していますか？

回答結果	飼っているペットの種類		全体平均
	犬	猫	
1年に1回は必ず接種している	71.2%	32.1%	59.1%
数年に1回は接種している	17.2%	26.4%	20.0%
受けたことがない	7.8%	34.4%	16.0%
わからない	3.9%	7.2%	4.9%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

「1年に1回は必ず接種している」と答えた飼い主が最も多く約6割（59.1%）、「数年に1回は接種している」（20.0%）と答えた方を合わせると約8割（79.1%）の飼い主がワクチン接種に対して高い意識を持っていることがうかがえます。

混合ワクチンの種類や効果、副作用を知っていますか？ 上記設問に「している」と回答した方対象

回答結果	飼っているペットの種類		全体平均
	犬	猫	
種類や効果、副作用を知っている	24.4%	24.8%	24.5%
種類や効果は知っている	38.7%	32.2%	37.2%
種類は知っている	13.0%	14.0%	13.2%
知らない	23.9%	29.0%	25.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

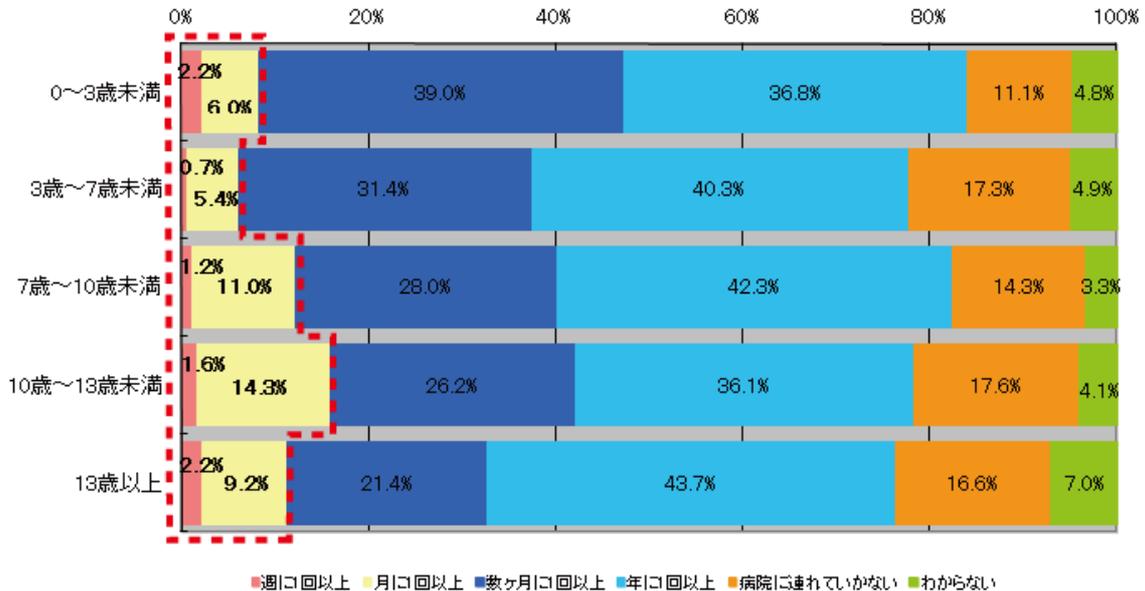
ワクチン接種の種類や効果、副作用について理解されている範囲に差はあるものの、「知っている」と回答した方は約7割（74.9%）。4人に1人（25.1%）はワクチンについて「知らない」状態で接種しているという結果に。

あなたのペットは去勢や避妊手術をしていますか？

回答結果	飼っているペットの種類		全体平均
	犬	猫	
手術をしている	45.7%	82.2%	57.0%
手術をしていない	53.3%	16.6%	41.9%
わからない	1.0%	1.2%	1.1%
総計	100.0%	100.0%	100.0%

猫を飼っている方の約8割（82.2%）が手術をしていると回答。対して、犬を飼っている方の約5割（53.3%）が手術をしていないとの結果に。ペットの種類別によって差が出ていることが分かります。

ペットの年齢と通院頻度の比例表



ペットの年齢と通院頻度の関連性では、全体的に「数か月に1回以上」や「年1回以上」の通院が多い回答となっておりますが、赤い点線で囲った「月に1回以上」・「週に1回以上」の傾向が注目されます。

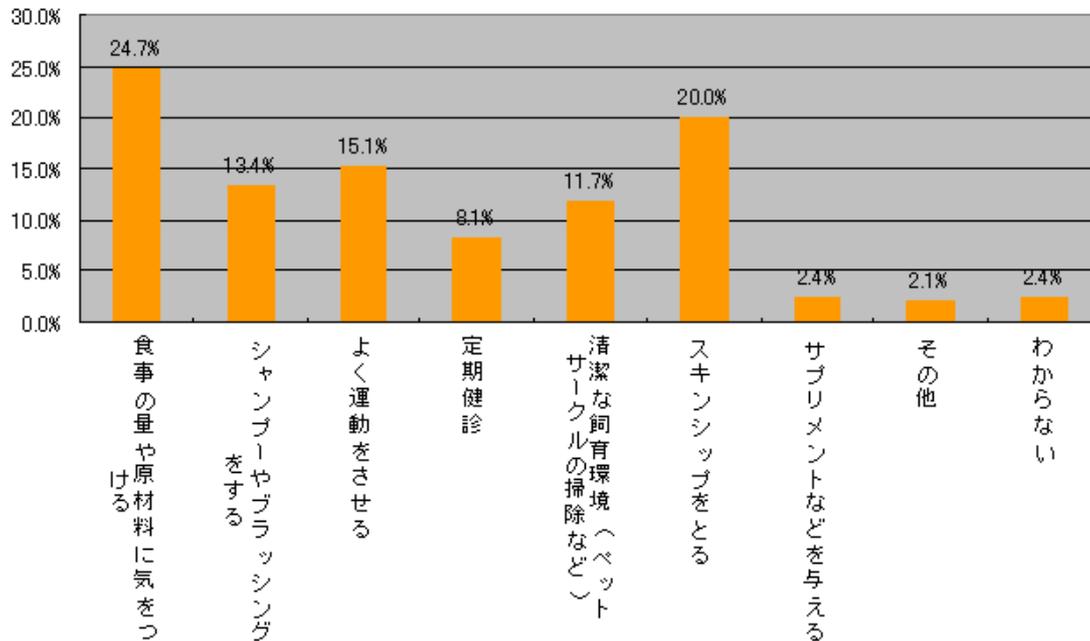
ペットの年齢に比例して通院頻度が上昇する傾向が見られ、特に7歳～10歳未満（12.2%）、10歳～13歳未満（15.9%）のいわゆる高年齢に相当する時期に差し掛かると病院に通院する回数が増えていくことが分かります。

あなたのペットが現在または過去に病気や怪我をした箇所をお教えてください。（複数回答）

回答結果	飼っているペットの種類		全体平均
	犬	猫	
目	14.2%	20.2%	10.5%
耳	20.3%	9.0%	10.9%
鼻	2.4%	5.5%	2.2%
歯・口	9.2%	11.0%	6.4%
皮膚	29.5%	24.7%	18.3%
骨・関節	14.2%	7.0%	7.8%
呼吸器系	2.9%	4.7%	2.3%
消化器系	16.9%	22.9%	12.2%
免疫系	3.2%	4.1%	2.3%
その他	20.0%	23.3%	13.7%
わからない	20.5%	20.9%	13.4%

犬・猫ともに病気や怪我の箇所として一番多かったのが「皮膚」（18.3%）との結果に。種別ごとの箇所の比較を見てみると犬の「耳」と「骨・関節」の病気や怪我は、猫に比べて約2倍以上発症する確率が高いことが分かります。対して猫の「目」の病気や怪我は、犬に比べて約1.5倍、「鼻」に関しては、約2倍発症する確率が高い結果に。

ペットの健康管理のためにやっていることは何ですか？（複数回答）



ペットの健康管理のためにやっていることで一番多かったものが、「食事の量や原材料に気をつける」（24.7%）という結果に。続いて多かったものが「スキンシップをとる」（20.0%）、「よく運動をさせる」（15.1%）という結果となり、ペットとのコミュニケーションを重要視している傾向が見受けられます。犬や猫、大型犬・小型犬など種別によって年齢に対する考え方に違いはありますが、ペットといつまでも一緒に過ごしていけるように、健康管理に気をつけている飼い主の姿を想像することができます。

本調査結果に関するお問い合わせ先
 ペット&ファミリー少額短期保険株式会社 経営企画部 佐藤
 電話：03-5844-1120
 URL：<http://www.petfamilyins.co.jp/>